

クマ剥ぎをご存じでしょうか？

ツキノワグマの変わった採食行動です。春～初夏に針葉樹の外皮を剥ぎ、木部と外皮の間にある形成層(養分を蓄えた生きている細胞)を食べる行動です。



この行動の対象は、大きく育った木で、本市では主にスギとヒノキです。林業被害としてニホンジカの「角研ぎ」が報じられることが多いですが、山林内で人知れず地味にクマ剥ぎの被害に遭っている木々があります。外皮を剥がれた部位から木材腐朽菌が侵入すると、木材として利用することができなくなるため、森林所有者に大きな損害を与えています。



枯れたスギ



今年のクマ剥ぎ

昨年のクマ剥ぎ

遠くから森を眺めると、ポツリと赤く枯れている木が見えることがあります。その要因の一つとして、クマ剥ぎがあります。

同じ木に多年にわたりクマ剥ぎが継続され、外皮が一周剥がされると、「巻き枯らし(※)」と同じ要領で木が枯れてしまうことがあります。

※樹皮と形成層を環状に剥がして木を枯らす方法

## 「クマの好きな森」

ツキノワグマは、臆病な動物と言われており、右の写真のように見通しの良い森が好きなようです。このような森には、たくさんのクマ剥ぎが集中して見られることがありますが、深い藪に覆われ、見通しの悪い森でのクマ剥ぎはほとんど見られません。



クマ剥ぎは、個体によって特徴があります。

そもそもクマ剥ぎは、母グマが子グマにやり方を教えると言われていています（母グマに教わらないクマは、クマ剥ぎをしない）。そのため、母グマの教えによって、その一族固有のクマ剥ぎが引き継がれます。

違いが出る特徴の一つは、対象木です。市内では、スギとヒノキの2種が対象木になっています。



スギ



ヒノキ

左はスギのクマ剥ぎ、右はヒノキのクマ剥ぎです。スギを剥ぐクマは、スギを剥ぎ続け、ヒノキを剥ぐクマは、ヒノキを剥ぎ続けるようです。市内の古いクマ剥ぎを見るとほとんどがスギの大径木です。スギを好むクマが昔から本市に生息していたと考えられます。しかし、最近では、ヒノキのクマ剥ぎも市内でたくさん見られるようになってきました。市外で育ったクマが移動してきていると考えられます。

下の写真は、スギの古いクマ剥ぎです。この巻き込み具合から見ると5～8年前のクマ剥ぎと考えられます。

巻き込み



「爪」で形成層を剥いている



「前歯」で形成層を剥いている



もう一つの特徴は、剥ぎ取り方です。「爪」を使うパターンと「前歯」を使うパターンが確認できます。そして、全ての特徴を加味すると、次の4パターンのクマが本市に生息していると考えられます。

スギ - 爪で剥ぐ	スギ - 前歯で剥ぐ
ヒノキ - 爪で剥ぐ	ヒノキ - 前歯で剥ぐ

これらは、母グマから引き継いだそれぞれ固有のクマ文化だと考えられます。

### 「別のクマ剥ぎ」

右の写真は、クマの「背こすり」と言われる行動の痕跡です。

諸説ありますが、好みの樹木を傷つけ、ヤニを出し、体毛に擦り付ける行動です。この痕跡には、樹皮の隙間に体毛が付いています。この行動は、まだ謎です。



ツガ



ヒノキ



アカマツ

**【注意】クマ剥ぎを見つけた場合は、速やかにその場を離れてください。**